

出来形管理基準及び規格値

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
7 河川 海岸 編	1 堤防・ 護岸	6 護岸 工	5		コンクリート被覆工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		7-1-6-5	
						法長 $\ell$	$\ell < 3m$				-50
							$\ell \geq 3m$				-100
						厚さ t	$t < 100$				-20
							$t \geq 100$				-30
						裏込材厚 $t'$	-50				
						延 長 L	-200				
7 河川 海岸 編	1 堤防・ 護岸	8 天端被 覆工	2		コンクリート被覆工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		7-1-8-2	
						幅 w	-50				
						厚 さ t	-10				
						基 礎 厚 $t'$	-45				
						延 長 L	-200				

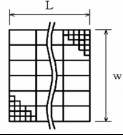
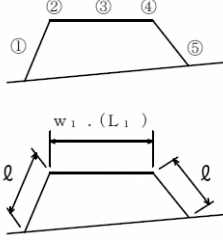
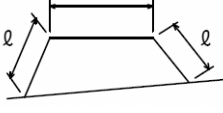
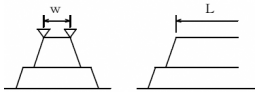
出来形管理基準及び規格値

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
7 河川 海岸 編	1 堤防・ 護岸	9 波返 工	3		波返工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		7-1-9-3	
						幅 $w_1, w_2$	-30				
						高さ $h < 3m$ $h_1, h_2, h_3$	-50				
						高さ $h \geq 3m$ $h_1, h_2, h_3$	-100				
						延 長 L	-200				
7 河川 海岸 編	2 突堤・ 人工岬	4 突堤基 礎工	4		捨石工	本 均 し	$\pm 50$	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。		7-2-4-4	
						表 面 均 し	$\pm 100$				
						基 準 高	異形ブロック据付面（乱積）の高さ				$\pm 500$
							異形ブロック据付面（乱積）以外の高さ				$\pm 300$
						$\nabla$	異形ブロック据付面（乱積）の高さ				$\pm 500$
							異形ブロック据付面（乱積）以外の高さ				$\pm 300$
						法 長 $\ell$	-100				幅は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所、延長はセンターライン及び表裏法肩。
						天 端 幅 $w_1$	-100				
						天端延長 $L_1$	-200				

出来形管理基準及び規格値

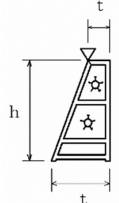
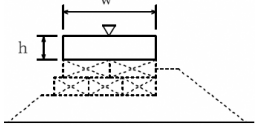
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
7 河川 海岸 編	2 突堤・ 人工 岬	4 突堤基礎 工	5		吸出し防止工	幅 w	-300	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		7-2-4-5	
						延 長 L	-500				
7 河川 海岸 編	2 突堤・ 人工 岬	5 突堤本体 工	2		捨石工	基準高▽	異形ブロック据付面（乱積）の高さ	±500	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。		7-2-5-2
							異形ブロック据付面（乱積）以外の高さ	±300			
						法 長 $\varnothing$	-100	幅は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所、延長はセンターライン及び表裏法肩。			
						天 端 幅 $w_1$	-100				
						天端延長 $L_1$	-200				
7 河川 海岸 編	2 突堤・ 人工 岬	5 突堤本体 工	5		海岸コンクリートブロック工	基準高▽	（層積）ブロック規格26t未満	±300	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。延長は、センターラインで行う。		7-2-5-5
							（層積）ブロック規格26t以上	±500			
							（乱積）	±ブロックの高さの1/2			
						天 端 幅 w	-ブロックの高さの1/2				
						天 端 延長 L	-ブロックの高さの1/2				

I - 149

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
7 河川 海岸 編	2 突堤・ 人工 岬	5 突堤本体 工	9		石砕工	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		7-2-5-9	
						厚 さ t	-50				
						高 さ h	$h < 3m$				-50
							$h \geq 3m$				-100
						延 長 L	-200				1施工箇所毎
7 河川 海岸 編	2 突堤・ 人工 岬	5 突堤本体 工	10		場所打コンクリート工	基準高▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		7-2-5-10	
						幅 w	-30				
						高 さ h	-30				
						延 長 L	-200				

出来形管理基準及び規格値

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	11	1	ケーソン工 (ケーソン工製作)	パ ラ ス ト の 基 準 高 ▽	砕 石、砂	±100	各室中央部1ヶ所		7-2-5-11
							コ ン ク リ ー ト	±50			
						壁 厚 $t_1$	±10	底版完成時、各壁1ヶ所			
						幅 $w$	+30, -10	各層完成時に中央部及び底版と天端は 両端			
						高 さ $h_1$	+30, -10	完成時、四隅			
						長 さ $L$	+30, -10	各層完成時に中央部及び底版と天端は 両端			
						底版厚さ $t_2$	+30, -10	底版完成時、各室中央部1ヶ所			
						フーチング高さ $h_2$	+30, -10	底版完成時、四隅			
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	11	2	ケーソン工 (ケーソン工据付)	法線に対する出入 1、2	ケーソン重量 2000 t 未満 ±100	据付完了後、両端2ヶ所		7-2-5-11	
							ケーソン重量 2000 t 以上 ±150				
						据付目地間隔 1'、2'	ケーソン重量 2000 t 未満 100以下	据付完了後、天端2ヶ所			
							ケーソン重量 2000 t 以上 200以下				

I - 151

出来形管理基準及び規格値

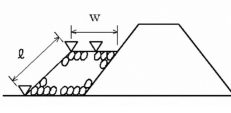
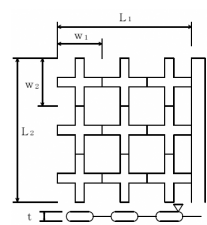
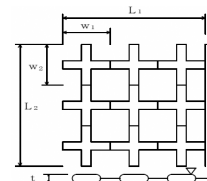
単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	11	3	ケーソン工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	基 準 高 ▽	陸 上	±30	1室につき1ヶ所 (中心)		7-2-5-11
							水 中	±50			
						厚 さ $t$	±30				
						幅 $w$	±30				
						長 さ $L$	±30				
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	12	1	セルラー工 (セルラー工製作)	壁 厚 $t$	±10	型枠取外し後全数		7-2-5-12	
						幅 $w$	+20, -10				
						高 さ $h$	+20, -10				
						長 さ $L$	+20, -10				
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	12	2	セルラー工 (セルラー工据付)	法線に対する 出入1、2	±50	据付後ブロック1個に2ヶ所 (各段 毎)		7-2-5-12	
						隣接ブロックと の間隔1'、2'	50以下				
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	12	3	セルラー工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	基 準 高 ▽	陸 上	±30	1室につき1ヶ所 (中心)		7-2-5-12
							水 中	±50			
						厚 さ $t$	±30				
						幅 $w$	±30				
						長 さ $L$	±30				

I - 152  
13-98

出来形管理基準及び規格値

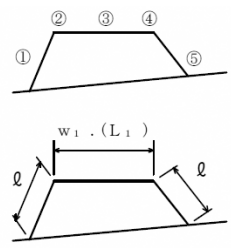
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	6 根固め工	2		捨石工	基準 高▽	異形ブロック据付面 (乱積)の高さ	±500	施工延長10mにつき、1測点当たり5 点以上測定。		7-2-6-2	
							異形ブロック据付面 (乱積)以外の高さ	±300				
						法 長ℓ	-100	幅は施工延長40m（測点間隔25mの 場合は50m）につき1ヶ所、延長 40m（又は50m）以下のものは1施工 箇所につき2ヶ所、延長はセンターラ イン及び表裏法肩。				
						天 端 幅w	-100					
						天 端 延 長L	-200					
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	6 根固め工	3		根固めブロック工	基準 高▽	層 積	±300	施工延長40m（測点間隔25mの場合は 50m）につき1ヶ所、延長40m（又は 50m）以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。		7-2-6-3	
							乱 積	±t/2				
						厚 さ t	-20	幅、厚さは40個につき1ヶ所測定。				
						幅 w <sub>1</sub> w <sub>2</sub>	層 積					-20
						延 長 L <sub>1</sub> L <sub>2</sub>		乱 積				-t/2
							層 積	-200				
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	7 消波工	3		消波ブロック工	基準 高▽	層 積	±300	施工延長40m（測点間隔25mの場合は 50m）につき1ヶ所、延長40m（又は 50m）以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。		7-2-7-3	
							乱 積	±t/2				
						厚 さ t	-20	幅、厚さは40個につき1ヶ所測定。				
						幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-20					
						延 長 L <sub>1</sub> , L <sub>2</sub>	-200					

I - 153

出来形管理基準及び規格値

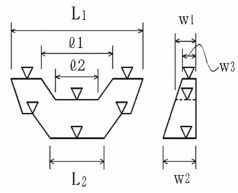
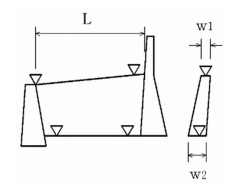
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
7 河川 海岸 編	3 海域堤防（人工 リープ、離岸堤、 潜堤）	3 海域堤基礎工	3		捨石工	本 均 し	±50	施工延長10mにつき、1測点当たり5 点以上測定。		7-3-3-3	
						基準 高▽	異形ブロック据付面 (乱積)の高さ				±500
							異形ブロック据付面 (乱積)以外の高さ				±300
						被 覆 均 し	異形ブロック据付面 (乱積)の高さ				±500
							異形ブロック据付面 (乱積)以外の高さ				±300
						法 長ℓ	-100				幅は施工延長40m（測点間隔25mの場 合は50m）につき1ヶ所、延長40m （又は50m）以下のものは1施工箇所 につき2ヶ所、延長はセンターライン 及び表裏法肩。
						天 端 幅w <sub>1</sub>	-100				
天 端 延 長L <sub>1</sub>	-200										
8 砂防 編	1 砂防堰堤	3 工場製作工	4		鋼製堰堤仮設材製作工	部 材	部材長ℓ (m)	±3...ℓ ≤ 10 ±4...ℓ > 10	図面の寸法表示箇所にて測定。	8-1-3-4	

I - 154  
13-99

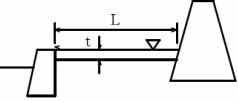
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
8 砂防編	1 砂防堰堤	8 コンクリート堰堤工	4		コンクリート堰堤本体工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	図面の表示箇所にて測定。		8-1-8-4
						天端部 堰 幅 $w_1, w_3$ 堰 幅 $w_2$	-30			
						水通しの幅 $\phi_1, \phi_2$	$\pm 50$			
						堰 長 $L_1, L_2$	-100			
8 砂防編	1 砂防堰堤	8 コンクリート堰堤工	6		コンクリート側壁工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	1. 図面の寸法表示箇所を測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。		8-1-8-6
						幅 $w_1, w_2$	-30			
						長 さ L	-100			

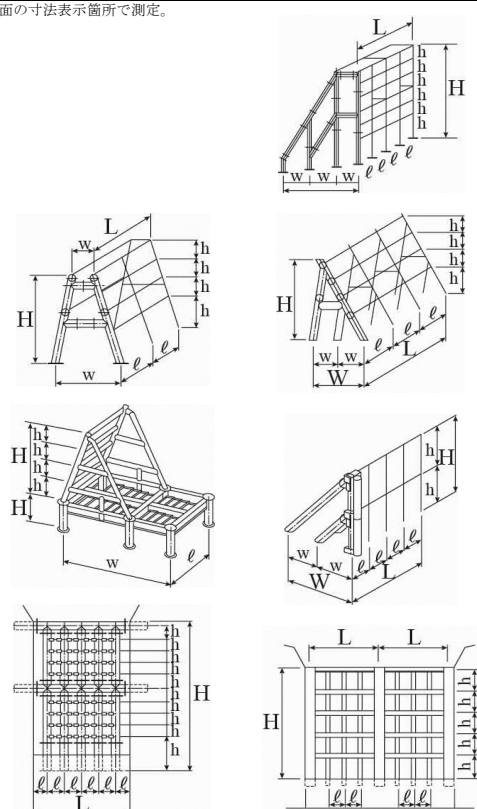
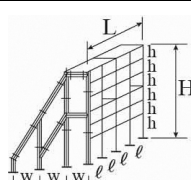
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
8 砂防編	1 砂防堰堤	8 コンクリート堰堤工	8		水叩工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所にて測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。		8-1-8-8	
						幅 w	-100				
						厚 さ t	-30				
						延 長 L	-100				
8 砂防編	1 砂防堰堤	9 鋼製堰堤工	5	1	鋼製堰堤本体工 (不透過型)	水通し部	堤 高 $\nabla$	$\pm 50$	1. 図面の表示箇所にて測定する。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。		8-1-9-5
							長 さ $\phi_1, \phi_2$	$\pm 100$			
							幅 $w_1, w_3$	$\pm 50$			
							下流側倒れ $\Delta$	$\pm 0.02H_1$			
						袖部	袖 高 $\nabla$	$\pm 50$			
							幅 $w_2$	$\pm 50$			
							下流側倒れ $\Delta$	$\pm 0.02H_2$			

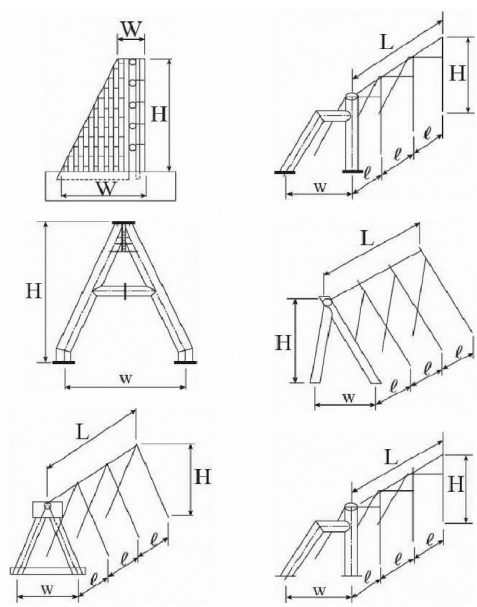
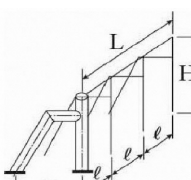
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
8 砂防編	1 砂防堰堤	9 鋼製堰堤工	5	2	鋼製堰堤本體工 (透過型)  (次頁に続く)	堤 長 L	±50	図面の寸法表示箇所にて測定。  		8-1-9-5
						堤 長 $l$	±10			
						堤 幅 W	±30			
						堤 幅 w	±10			
						高 さ H	±10			
						高 さ h	±10			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
8 砂防編	1 砂防堰堤	9 鋼製堰堤工	5	2						

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
8 砂防編	1 砂防堰堤	9 鉄製堰堤工	6		鋼製側壁工	堤 高 $\nabla$	$\pm 50$	1. 図面に表示してある箇所にて測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。		8-1-9-6
						長 さ L	$\pm 100$			
						幅 $w_1, w_2$	$\pm 50$			
						下流側倒れ $\Delta$	$\pm 0.02H$			
						高さ h	<table border="1"> <tr> <td><math>h &lt; 3m</math></td> <td>-50</td> </tr> <tr> <td><math>h \geq 3m</math></td> <td>-100</td> </tr> </table>			
$h < 3m$	-50									
$h \geq 3m$	-100									
8 砂防編	2 流路	5 床固め工	8		魚道工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		8-2-5-8
						幅 w	-30			
						高 さ $h_1, h_2$	-30			
						厚 さ $t_1, t_2$	-20			
						延 長 L	-200			
8 砂防編	3 斜面対策	6 山腹水路工	4		山腹明暗渠工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		8-3-6-4
						厚 さ $t_1, t_2$	-20			
						幅 w	-30			
						幅 $w_1, w_2$	-50			
						高 さ $h_1, h_2$	-30			
						深 さ $h_3$	-30			
						延 長 L	-200			

I - 159

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
8 砂防編	3 斜面対策	7 地下水排除工	4		集排水ボーリング工	削 孔 深 さ $\ell$	設計値以上	全数		8-3-7-4
						配 置 誤 差 d	100			
						せん孔方向 $\theta$	$\pm 2.5$ 度			
8 砂防編	3 斜面対策	7 地下水排除工	5		集水井工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$	全数測定。 偏心量は、杭頭と底面の差を測定。		8-3-7-5
						偏 心 量 d	150			
						長 さ L	-100			
						巻 立 て 幅 w	-50			
						巻 立 て 厚 さ t	-30			
8 砂防編	3 斜面対策	9 抑止杭工	6		合成杭工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$	全数測定。		8-3-9-6
						偏 心 量 d	D/4以内かつ 100以内			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
9 ダム 編	1 コン クリ ート ダム	4 ダム コン クリ ート 工			コンクリートダム工 (本体)	天 端 高 ▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高（越流部堤頂高を含む）は、各ジョイントについて測定。 ②堤幅、リフト高は、各ジョイントについて5リフトごとに測定。 (注) 堤幅、リフト高の測定は、上下流面型枠と水平打継目の接触部とする。（堤幅は、中心線又は、基準線との関係づけも含む） ③ジョイント間隔（横継目）は、5リフトごと上流端、下流端を対象に測定。 ④堤長は、天端中心線延長を測定。 3. ①越流堤頂部、天端仕上げなどの平坦性の測定方法は、監督員の指示による。 ②監査廊の数高、幅、高さ、平坦性などの測定方法は監督員の指示による。		9-1-4
						天 端 幅	±20			
						ジョイント間隔	±30			
						リ フ ト 高	±50			
						堤 幅	-30, +50			
						堤 長	-100			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
9 ダム 編	1 コン クリ ート ダム	4 ダム コン クリ ート 工			コンクリートダム工 (水叩)	天 端 高 ▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高（敷高）、ジョイント間は各ジョイント、各測点の交差点を測定。 ②長さは、各ジョイントごとに測定。 ③幅は、各測点ごとに測定。 3. 水叩の平坦性の測定は監督員の指示による。		9-1-4
						ジョイント間隔	±30			
						幅	±40			
						長 さ	-100, +60			



出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
9 ダム 編	1 コン クリ ート ダム	4 ダム コン クリ ート 工			コンクリートダム工 (副ダム)	天 端 高 ▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高は、各ジョイントごとに測定。 ②堤幅、リフト高は、各ジョイントについて3リフトごとに測定。 (注) 堤幅、リフト高の測定は、上下流面型枠と水平打継目の接触部とする。(堤幅は、中心線又は、基準線との関係づけも含む) ③ジョイント間隔は、3リフトごと上流端、下流端を対象に測定。 ④堤長は、各測点ごとに測定。		9-1-4
						ジョイント間隔	±30			
						リ フ ト 高	±50			
						堤 幅	-30, +50			
						堤 長	±40			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
9 ダム 編	1 コン クリ ート ダム	4 ダム コン クリ ート 工			コンクリートダム工 (導流壁)	天 端 高 ▽	±30	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高、天端幅は、各測点、又はジョイントごとに測定。 ②リフト高、厚さは、各測点、又はジョイントについて3リフトごとに測定。 (注) リフト高、厚さの測定は、前面、背面型枠設置後からとする。なお、リフト高、厚さの測定箇所は、前面背面型枠と水平打継目の接触部とする。 ③長さとは、天端中心線の水平延長又は、測点に直角な水平延長を測定。		9-1-4
						ジョイント間隔	±20			
						リ フ ト 高	±50			
						長 さ	±100			
						厚 さ	±20			

出来形管理基準及び規格値

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
9 ダム編	2 フィルダム	4 盛立工	5		コアの盛立	基 準 高 ▽	設計値以上	各測点について5層毎に測定。 ※外側境界線は標準機種(タンピングローラ)の場合		9-2-4-5
						外 側 境 界 線	-0, +500			
			6		フィルターの盛立	基 準 高 ▽	-0	各測点について5層毎に測定。		9-2-4-6
						外 側 境 界 線	-0, +1000			
						盛 立 幅	-0, +1000			
			7		ロックの盛立	基 準 高 ▽	-100	各測点について盛立5m毎に測定。		9-2-4-7
						外 側 境 界 線	-0, +2000			
9 ダム編	2 フィルダム				フィルダム (洪水吐)	基 準 高 ▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 1回/1施工箇所		9-2
						ジョイント間隔	±30			
						厚 さ t	±20			
						幅 W	±40			
						リフト高さ	±20			
						長 さ L	±100			
9 ダム編	3 基礎グラウチング	3 ボーリング工			ボーリング工	深 度 L	設計値以上	ボーリング工毎 ※配置位置の規定はコンクリート面で行うカーテングラウトに適用する。		9-3-3
						配 置 誤 差	100			


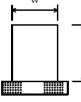
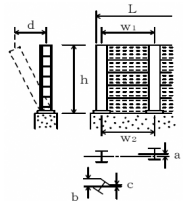
出来形管理基準及び規格値

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
10 道路編	1 道路改良	3 工場製作工	2		遮音壁支柱製作工	部材	部材長 $l$ (m)	±3... $l$ ≤ 10 ±4... $l$ > 10	図面の寸法表示箇所にて測定。		10-1-3-2
10 道路編	1 道路改良	9 カルバート工	6		場所打函渠工	基 準 高 ▽	±30	両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所にて測定。		10-1-9-6	
						厚 さ $t_1 \sim t_4$	-20				
						幅 (内法) w	-30				
						高 さ h	±30				
						延長 L	L < 20m: -50 L ≥ 20m: -100				
10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防	4		落石防止網工	幅 w	-200	1施工箇所毎		10-1-11-4	
						延 長 L	-200				
10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	5		落石防護柵工	高 さ h	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		10-1-11-5	
						延 長 L	-200				1施工箇所毎
10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	6		防雪柵工	高 さ h	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		10-1-11-6	
						延 長 L	-200				1施工箇所毎
						基礎	幅 $w_1, w_2$	-30			基礎1基毎
							高さ h	-30			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	規格値		測定基準	測定箇所	摘要		
						測定項目						
10 道路 編	1 道路 改良	11 落石 雪害 防止 工	7		雪崩予防柵工	高さ h	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		10-1-11-7		
						延長 L	-200				1施工箇所毎	
						基礎	幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>				-30	基礎1基毎
							高さ h				-30	
						アンカー   長 ℓ	打込みℓ				-10%	全数
埋込みℓ	-5%											
10 道路 編	1 道路 改良	12 遮音 壁工	4		遮音壁基礎工	幅 w	-30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		10-1-12-4		
						高さ h	-30					
						延長 L	-200				1施工箇所毎	
10 道路 編	1 道路 改良	12 遮音 壁工	5		遮音壁本体工	支柱	間隔 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	±15	施工延長5スパンにつき1ヶ所		10-1-12-5	
							ず れ a	10				
							ねじれ b - c	5				
							倒 れ d	h × 0.5%				
						高さ h	+30, -20	1施工箇所毎				
						延長 L	-200					

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )			
							中規模以上	小規模以上				
10 道路 編	2 舗装	4 舗装 工			歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	基準高▽	±50	—	基準高は片側延長40m毎に1ヶ所の割合で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1ヶ所掘り起こして測定。 幅は、片側延長80m毎に1ヶ所測定。 ※両端部2点で測定する。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未滿あるいは施工面積が2000㎡未滿。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未滿の場合は測定値の平均値は適用しない。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	10-2-4	
						厚さ	t < 15cm	-30				-10
							t ≥ 15cm	-45				-15
						幅	-100	—				

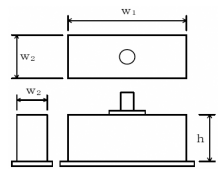
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )			
							中規模以上	小規模以上				
10 道路 編	2 舗 装	4 舗 装 工			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工	基準高▽	±30	—	基準高は片側延長40m毎に1ヶ所の割で測定。 幅は、片側延長80m毎に1ヶ所の割で測定。厚さは、片側延長200m毎に1ヶ所コアーを採取して測定。  「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測定の管理方法を用いることができる。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2000㎡未満。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X <sub>10</sub> )について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によること出来る。	10-2-4	
						厚 さ	-9	-3				
						幅	-25	—				

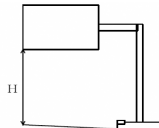
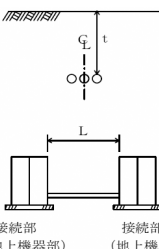
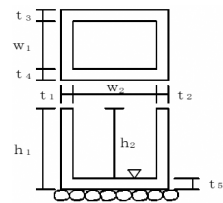
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
10 道路 編	2 舗 装	5 排 水 構 造 物 工	9		排水性舗装用路肩排水工	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。  なお、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測定の管理方法を用いることができる。		10-2-5-9	
						延 長 L	-200	1ヶ所/1施工箇所  なお、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測定の管理方法を用いることができる。			
10 道路 編	2 舗 装	7 踏 掛 版 工	4		踏掛版工 (コンクリート工)	基 準 高 ▽	±20	1ヶ所/1踏掛版		10-2-7-4	
						各 部 の 厚 さ	±20	1ヶ所/1踏掛版			
						各 部 の 長 さ	±30	1ヶ所/1踏掛版			
						(ラバーシュー)	各 部 の 長 さ	±20			全数
						厚 さ	—				
						(アンカーボルト)	中 心 の ず れ	±20			全数
ア ン カ ー 長	±20	全数									
10 道路 編	2 舗 装	9 標 識 工	4	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-30	基礎一基毎		10-2-9-4	
						高 さ h	-30				

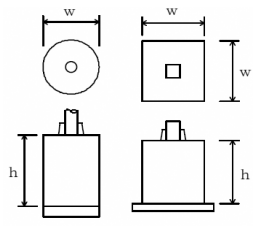
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道路 編	2 舗 装	9 標 識 工	4	2	大型標識工 (標識柱工)	設置高さ H	設計値以上	1ヶ所/1基		10-2-9-4
10 道路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	5	1	ケーブル配管工	埋 設 深 t	0～+50	接続部毎に1ヶ所		10-2-12-5
						延 長 L	-200			
10 道路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	5	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	基 準 高 ▽	±30	1ヶ所毎 ※印は、現場打ちのある場合		10-2-12-5
						※厚さ t <sub>1</sub> ～t <sub>5</sub>	-20			
						※幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-30			
						※高さ h <sub>1</sub> , h <sub>2</sub>	-30			

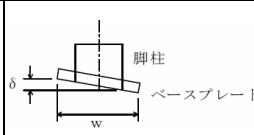
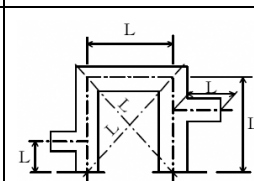
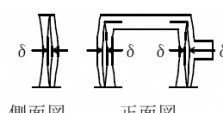
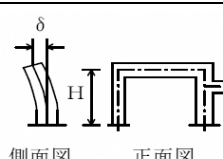
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	6		照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	-30	1ヶ所/1施工箇所		10-2-12-6
						高 さ h	-30			

出来形管理基準及び規格値

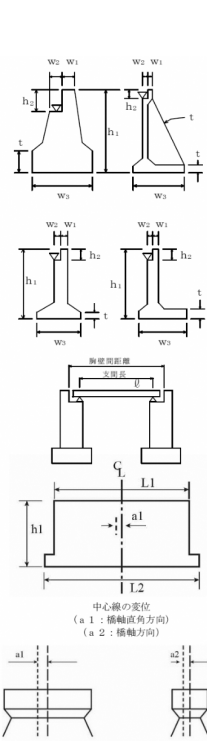
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
10 道路 編	3 橋梁 下部	3 工場 製作 工	3		鋼製橋脚製作工	脚柱とベースプレートとの鉛直度 $\delta$ (mm)	$w/500$	各脚柱、ベースプレートを測定。		10-3-3-3	
											部材
						孔の径 d	$0 \sim 5$	全数を測定。			
						仮組立時	柱の中心間隔、対角長 L (m)	$\pm 5 \cdots L \leq 10m$ $\pm 10 \cdots 10 < L \leq 20m$ $\pm (10 + (L - 20) / 10) \cdots 20m < L$	両端部及び片持り部を測定。		
							はりのキャンパー及び柱の曲がり $\delta$ (mm)	$L/1000$	各主構の各格点を測定。		
柱の鉛直度 $\delta$ (mm)	$10 \cdots H \leq 10$ $H \cdots H > 10$	各柱及び片持り部を測定。		10-3-3-3							

I - 173

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道路 編	3 橋梁 下部	6 橋台 工	8		橋台躯体工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 20$	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。箱抜き形状の詳細については「道路橋支保便覧」による。なお、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。(アンカーボルト孔の鉛直度を除く)ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。		10-3-6-8
						厚 さ t	-20			
						天 端 幅 $w_1$ (橋軸方向)	-10			
						天 端 幅 $w_2$ (橋軸方向)	-10			
						敷 幅 $w_3$ (橋軸方向)	-50			
						高 さ $h_1$	-50			
						胸壁の高さ $h_2$	-30			
						天 端 長 $l_1$	-50			
						敷 長 $l_2$	-50			
						胸壁間距離 $\ell$	$\pm 30$			
						支 間 長 及 び 中心線の変位	$\pm 50$			

(次頁に続く)

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
					(前頁の続き)	支 承 部 ア ン カ ー ボ ルト の 箱 抜 き 規 格 値	計 画 高  平 面 位 置  ア ン カ ー ボ ルト 孔 の 鉛 直 度	+10~-20  ±20  1/50以下	支 承 部 ア ン カ ー ボ ルト の 箱 抜 き 規 格 値 の 平 面 位 置 は 番 座 の 中 心 で は な く、 ア ン カ ー ボ ルト の 箱 抜 き の 中 心 で 測 定。  ア ン カ ー ボ ルト 孔 の 鉛 直 度 は 箱 抜 き を 橋 軸 方 向、 橋 軸 直 角 方 向 で 十 字 に 切 つ た 2 隅 で 計 測。	<p>平面位置 平面図 — : 実際 --- : 設計</p> <p>アンカーボルト孔の鉛直度 断面図 平面図 — : 実際 --- : 設計</p>	

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10	3	7	9	1	橋脚躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)	基 準 高 $\nabla$  厚 さ $t$  天 端 幅 $w_1$ (橋軸方向)  敷 幅 $w_2$ (橋軸方向)  高 さ $h_1$  天 端 長 $l_1$  敷 長 $l_2$  橋脚中心間距離 $\ell$  支 間 長 及 び 中 心 線 の 変 位	±20  -20  -20  -50  -50  -50  ±30  ±50	橋 軸 方 向 の 断 面 寸 法 は 中 央 及 び 両 端 部、 そ の 他 は 寸 法 表 示 箇 所。 箱 抜 き 形 状 の 詳 細 に つ い て は 「 道 路 橋 支 承 便 覧 」 に よ る。 な お、 従 来 管 理 の ほ か に 「 3 次 元 計 測 技 術 を 用 い た 出 来 形 管 理 要 領 ( 案 )」、 で 規 定 す る 出 来 形 計 測 性 能 を 有 す る 機 器 を 用 い る こ と が で き る。 ( ア ン カ ー ボ ルト 孔 の 鉛 直 度 を 除 く ) た だ し、「 3 次 元 計 測 技 術 を 用 い た 出 来 形 管 理 要 領 ( 案 )」、 に 基 づ き 出 来 形 管 理 を 実 施 す る 場 合 は、 同 要 領 に 規 定 す る 計 測 精 度・ 計 測 密 度 を 満 た す 計 測 方 法 に よ り 出 来 形 管 理 を 実 施 す る こ と が で き る。	<p>橋脚中心間距離 支間長</p> <p>中心線の変位 (a 1 : 橋軸直角方向) (a 2 : 橋軸方向)</p>	10-3-7-9
					(次頁に続く)					

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
					(前頁の続き)	支 承 部 ア ン カ ー ボ ル ト の 箱 抜 き 規 格 値	計 画 高  平 面 位 置  ア ン カ ー ボ ル ト 孔 の 鉛 直 度	+10~-20  ±20  1/50以下	支 承 部 ア ン カ ー ボ ル ト の 箱 抜 き 規 格 値 の 平 面 位 置 は 各 座 の 中 心 で は な く、 ア ン カ ー ボ ル ト の 箱 抜 き の 中 心 で 測 定。 ア ン カ ー ボ ル ト 孔 の 鉛 直 度 は 箱 抜 き を 橋 軸 方 向、 橋 軸 直 角 方 向 で 十 字 に 切 つ た 2 隅 で 計 測。		

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10	3	7	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)	基 準 高 $\nabla$  厚 さ $t$  天 端 幅 $w_1$  敷 幅 $w_2$  高 さ $h$  長 さ $\theta_2$  橋脚中心間距離 $\theta$  支 間 長 及 び 中 心 線 の 変 位	±20  -20  -20  -20  -50  -20  ±30  ±50	橋 軸 方 向 の 断 面 寸 法 は 中 央 及 び 両 端 部、 そ の 他 は 寸 法 表 示 箇 所。 箱 抜 き 形 状 の 詳 細 に つ い て は 「 道 路 橋 支 承 便 覧 」 に よ る。 な お、 従 来 管 理 の ほ か に 「 3 次 元 計 測 技 術 を 用 い た 出 来 形 管 理 要 領 ( 案 )」、 で 規 定 す る 出 来 形 計 測 性 能 を 有 す る 機 器 を 用 い る こ と が で き る。 ( ア ン カ ー ボ ル ト 孔 の 鉛 直 度 を 除 く) た だ し、「 3 次 元 計 測 技 術 を 用 い た 出 来 形 管 理 要 領 ( 案 )」、 に 基 づ き 出 来 形 管 理 を 実 施 す る 場 合 は、 同 要 領 に 規 定 す る 計 測 精 度・ 計 測 密 度 を 満 た す 計 測 方 法 に よ り 出 来 形 管 理 を 実 施 す る こ と が で き る。		10-3-7-9
					(次頁に続く)					



出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
					(前頁の続き)					
					支 承 部 ア ン カ ー ボ ル ト の 箱 抜 き 規 格 値	計 画 高	+10~-20	支 承 部 ア ン カ ー ボ ル ト の 箱 抜 き 規 格 値 の 平 面 位 置 は 番 座 の 中 心 で は な く、 ア ン カ ー ボ ル ト の 箱 抜 き の 中 心 で 測 定。  ア ン カ ー ボ ル ト 孔 の 鉛 直 度 は 箱 抜 き を 橋 軸 方 向、 橋 軸 直 角 方 向 で 十 字 に 切 つ た 2 隅 で 計 測。	<p>平面位置</p> <p>断面図</p>	
				平 面 位 置		±20				
				ア ン カ ー ボ ル ト 孔 の 鉛 直 度		1/50以下				

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	9	1	橋脚フーチング工 (I型・T型)	基 準 高 $\nabla$	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		10-3-8-9
						幅 $w$ (橋軸方向)	-50			
						高 さ $h$	-50			
						長 さ $l$	-50			
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	9	2	橋脚フーチング工 (門型)	基 準 高 $\nabla$	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		10-3-8-9
						幅 $w_1, w_2$	-50			
						高 さ $h$	-50			
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	10	1	橋脚架設工 (I型・T型)	基 準 高 $\nabla$	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		10-3-8-10
						橋脚中心間距離 $l$	±30			
						支 間 長 及 び 中心線の変位	±50			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
10 道路 編	3 橋梁 下部	8 鋼製 橋脚 工	10	2	橋脚架設工 (門型)	基準高▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。	<p>中心線の変位 (a1：橋軸直角方向) (a2：橋軸方向)</p>	10-3-8-10	
						橋脚中心間距離 $\ell$	±30				
						支間長及び中心線の変位	±50				
10 道路 編	3 橋梁 下部	8 鋼製 橋脚 工	11		現場継手工	現場継手部のすき間 $\delta 1, \delta 2$ (mm)	5 ※±5	主桁、主橋の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材(探使用)の場合		10-3-8-11	
10 道路 編	4 鋼橋 上部	3 工場 製作 工	9		橋梁用高欄製作工	部材	部材長 $\ell$ (m)	±3... $\ell$ ≤ 10 ±4... $\ell$ > 10	図面の寸法表示箇所所で測定。		10-4-3-9

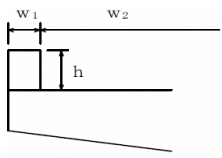
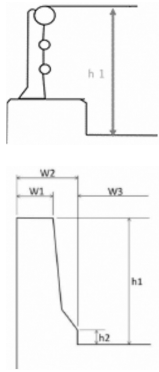
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
10 道路 編	4 鋼橋 上部	5 鋼橋 架設 工	10	1	支承工 (鋼製支承)	据付け高さ 注1)	±5	支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m)  支承の平面寸法が300mm以下の場合、 水平面の高低差を1mm以下とする。な お、支承を均配なりに据付ける場合を 除く。  注1) 先固定の場合は、支承上面で測 定する。 注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量 $\delta$ を考 慮して、移動可能量が道路橋支承便覧 の規格値を満たすことを確認する。注 3) 可動支承の移動量検査は、架設完 了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		10-4-5-10		
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量以上					
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	コンク リート橋				±5	±(4+0.5 ×(B-2))
							鋼橋					
						水平 度	橋軸方向				1/100	
							橋軸直角方 向					
						可動支承の橋 軸方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	5					
可動支承の 機能確認 注3)	温度変化に伴う 移動量計算値の 1/2以上											
10 道路 編	4 鋼橋 上部	5 鋼橋 架設 工	10	2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ 注1)	±5	支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m)  上部構造部材下面とゴム支承面との接 触面及びゴム支承と台座モルタルとの 接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が300mm以下の場合、 水平面の高低差を1mm以下とする。な お、支承を均配なりに据付ける場合を 除く。  注1) 先固定の場合は、支承上面で測定 する。 注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量 $\delta$ を考 慮して、移動可能量が道路橋支承便覧 の規格値を満たすことを確認する。注 3) 可動支承の移動量検査は、架設完 了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		10-4-5-10		
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量以上					
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	コンクリ ート橋				±5	±(4+0.5 ×(B-2))
							鋼橋					
						水平 度	橋軸方向				1/300	
							橋軸直角方 向					
						可動支承の橋 軸方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	5					
可動支承の 機能確認 注3)	温度変化に伴う 移動量計算値の 1/2以上											

出来形管理基準及び規格値

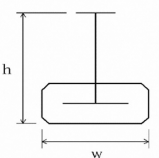
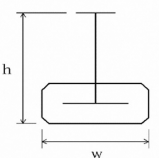
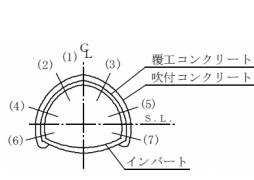
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道路編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	3		落橋防止装置工	アンカーボルト孔の 削孔長	設計値以上	全数測定  全数測定D：アンカーボルト径(mm)		10-4-8-3
						アンカーボルト定着長	-20以内 かつ-1D以内			
10 道路編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	5		地覆工	地覆の幅 $w_1$	-10～+20	1径間当たり両端と中央部の3ヶ所測定。  		10-4-8-5
						地覆の高さ $h$	-10～+20			
						有効幅員 $w_2$	0～+30			
10 道路編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	6 7		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	天 端 幅 $w_1$	-5～+10	1径間当たり両端と中央部の3ヶ所測定。  		10-4-8-6 10-4-8-7
						地覆の幅 $w_2$	-10～+20			
						高 さ $h_1$	-20～+30			
						高 さ $h_2$	-10～+20			
						有効幅員 $w_3$	0～+30			

I-183

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道路編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	8		検査路工	幅	±3	1ブロックを抽出して測定。  		10-4-8-8
						高 さ	±4			
10 道路編	5 コンクリート橋上部	6 プレベーム工	2		プレベーム桁製作工 (現場)	幅 $w$	±5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3ヶ所とする。 $\ell$ ：スパン長  		10-5-6-2
						高 さ $h$	10 -5			
						桁 長 $\ell$ スパン長	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内			
						軸方向最大タワミ	0.8 $\ell$			
10 道路編	6 トンネル(NATM)	4 支保工	3		吹付工	吹付け厚さ	設計吹付け厚以上。ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚の1/3以上を確保するものとする。  施工延長40m毎に図に示す。 (1)～(7)及び断面変化点の検測孔を測定。 (注) 良好な岩盤とは、「道路トンネル技術基準(構造編)・同解説」にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。  		10-6-4-3	

出来形管理基準及び規格値

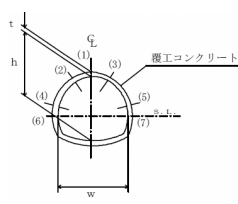
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道路 編	6 トン ネル (N A T M)	4 支 保 工	4		ロックボルト工	位 置 間 隔	—	施工延長40m毎に断面全本数検測。		10-6-4-4
						角 度	—			
						削 孔 深 さ	—			
						孔 径	—			
						突 出 量	プレート下面 から10cm以内			

I - 185

出来形管理基準及び規格値

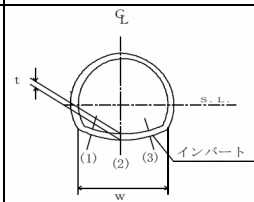
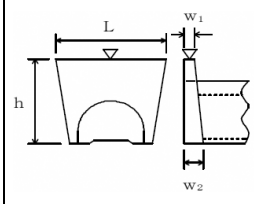
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道路 編	6 トン ネル (N A T M)	5 覆 工	3		覆工コンクリート工	基準高▽ (拱頂)	±50	(1) 基準高、幅、高さは、施工40mにつき1ヶ所。 (2) 厚さ (4) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。 (5) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (6) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は40mに1ヶ所、(2)~(3)は100mに1ヶ所の割合で行う。  なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2ヶ所以上の検測孔による測定を行う。ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。 なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。  計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることが出来る。		10-6-5-3
						幅 w (全幅)	-50			
						高さ h (内法)	-50			
						厚 さ t	設計値以上			
						延 長 L	—			

I - 186  
13-115

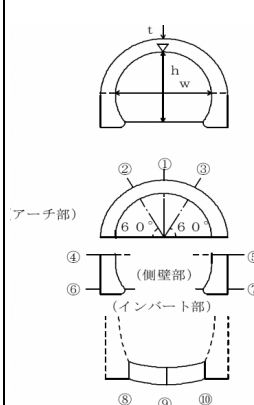
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
10 道路 編	6 トン ネル (N A T M)	5 覆 工	5		床版コンクリート工	幅 w	-50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		10-6-5-5	
						厚 さ t	-30				
10 道路 編	6 トン ネル (N A T M)	6 イン パ ー ト 工	4		インパート本体工	幅 w（全幅）	-50	(1)幅は、施工40mにつき1ヶ所。 (2)厚さ (イ)コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の中間と終点を図に示す各点で測定。 (ロ)コンクリート打設後、インパートコンクリートについて1打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。		10-6-6-4	
						厚 さ t	設計値以上				
						延 長 L	—				
10 道路 編	6 トン ネル (N A T M)	8 坑 門 工	4		坑門本体工	基 準 高 ▽	±50	図面の主要寸法表示箇所にて測定。		10-6-8-4	
						幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-30				
						高 さ h	h < 3m				-50
							h ≥ 3m				-100
						延 長 L	-200				

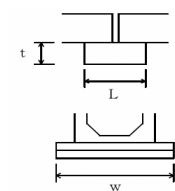
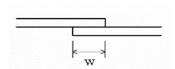
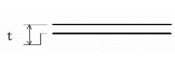
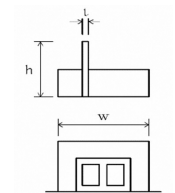
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道路 編	6 トン ネル (N A T M)	8 坑 門 工	5		明り巻工	基準高▽（拱頂）	±50	基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長40mにつき1ヶ所を測定。 なお、厚さについては図に示す各点①～⑩において、厚さの測定を行う。		10-6-8-5
						幅 w（全幅）	-50			
						高さ h（内法）	-50			
						厚 さ t	-20			
						延 長 L	—			
10 道路 編	11 共同 溝	6 現 場 打 筋 工	2		現場打筋体工	基 準 高 ▽	±30	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。		10-11-6-2
						厚 さ t	-20			
						内 空 幅 w	-30			
						内 空 高 h	±30			
						ブロック長 L	-50			

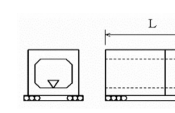
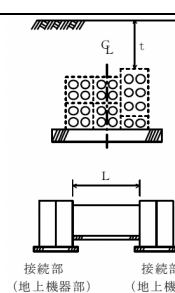
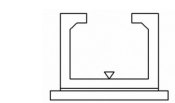
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道路 編	11 共同 溝	6 現場 打構 築工	4		カラー継手工	厚 さ t	-20	図面の寸法表示箇所にて測定。		10-11-6-4
						幅 w	-20			
						長 さ L	-20			
10 道路 編	11 共同 溝	6 現場 打構 築工	5	1	防水工 (防水)	幅 w	設計値以上	両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版にて測定。		10-11-6-5
10 道路 編	11 共同 溝	6 現場 打構 築工	5	2	防水工 (防水保護工)	厚 さ t	設計値以上	両端・施工継手箇所の「四隅」にて測定。		10-11-6-5
10 道路 編	11 共同 溝	6 現場 打構 築工	5	3	防水工 (防水壁)	高 さ h	-20	図面の寸法表示箇所にて測定。		10-11-6-5
						幅 w	±50			
						厚 さ t	-20			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
10 道路 編	11 共同 溝	7 プレ キャスト 躯体工	2		プレキャスト躯体工	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。ただし、基準高の適用は据付後の段階検査時のみ適用する。		10-11-7-2	
						延 長 L	-200				延長：1 施工箇所毎
10 道路 編	12 電線 共同 溝	5 電線 共同 溝工	2		管路工（管路部）	埋 設 深 t	0～+50	接続部（地上機器部）間毎に1ヶ所。		10-12-5-2	
						延 長 L	-200				接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センターで測定】
10 道路 編	12 電線 共同 溝	5 電線 共同 溝工	3		プレキャストボックス工（特殊部）	基 準 高 ▽	±30	接続部（地上機器部）間毎に1ヶ所。		10-12-5-3	

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	規格値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						測定項目	規格値			
10 道路 編	12 電線 共同 溝	6 付帯 設備 工	2		ハンドホール工	基 準 高 $\nabla$	±30	1ヶ所毎 ※は現場打部分のある場合		10-12-6-2
						※厚 さ $t_1 \sim t_5$	-20			
						※幅 $w_1, w_2$	-30			
						※高 さ $h_1, h_2$	-30			

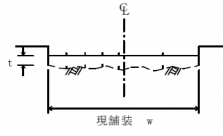
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	規格値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
						測定項目	個々測定値 (X)				測定値の平均 (X̄)
10 道路 編	14 道路 維持	4 舗装 工	5	1	切削オーバーレイ工	厚 さ $t$ (切削)	-7	-2	<p>厚さは40m毎に「現舗装高と切削後の基準高の差」「切削後の基準高とオーバーレイ後の基準高の差」で算出する。</p> <p>測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。</p> <p>幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、延長80m未満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。</p> <p>断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。</p> <p>「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測定の管理方法を用いることができる。</p>		10-14-4-5
						厚 さ $t$ (オーバーレイ)	-9				
						幅 $w$	-25				
						延長 $L$	-100				
		平坦性	—	3mプロフィールメーター ( $\sigma$ )2.4mm以下直読式(足付き) ( $\sigma$ )1.75mm以下							
10 道路 編	14 道路 維持	4 舗装 工	5	2	切削オーバーレイ工 (面管理の場合) 厚さ $t$ または 標高較差 (切削) のみ	厚 さ $t$ (標高較差) (切削)	-17 (17)	-2 (2)	<p>1. 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 計測は切削面の全面とし、すべての点で設計面との厚さ <math>t</math> または 標高較差(切削)を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>(平面投影面積当たり)以上とする。</p> <p>3. 厚さ <math>t</math> または 標高較差(切削)は、現舗装高と切削後の基準高との差で算出する。</p> <p>4. 厚さ(オーバーレイ)は40m毎に「切削後の基準高とオーバーレイ後の基準高の差」で算出する。</p> <p>測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。</p> <p>5. 幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、延長80m未満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。</p> <p>断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。</p>		10-14-4-5
						厚 さ $t$ (オーバーレイ)	-9				
						幅 $w$	-25				
						延長 $L$	-100				
		平坦性	—	3mプロフィールメーター ( $\sigma$ )2.4mm以下直読式(足付き) ( $\sigma$ )1.75mm以下							

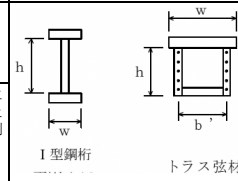
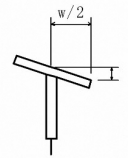
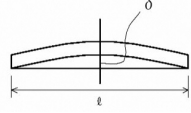
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)	測定値の平均 (X̄)			
10 道路 編	14 道路 維持	4 舗装 工	7		路上再生工	路盤工	厚さ t	-30	幅は延長80m毎に1ヶ所の割で測定。 厚さは、各車線200m毎に左右両端及び中央の3点を掘り起こして測定。		10-14-4-7
							幅 w	-50			
							延長 L	-100			

出来形管理基準及び規格値

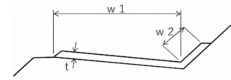
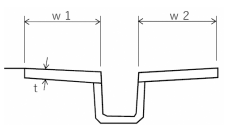
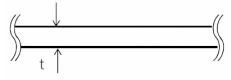
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
								鋼桁等	トラス・アーチ等		
10 道路 編	16 道路 修繕	3 工場 製作 工	4		桁補強材製作工	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	±2...w ≤ 0.5 ±3... 0.5 < w ≤ 1.0 ±4... 1.0 < w ≤ 2.0 ±(3+w/2)... 2.0 < w	主桁・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。		10-16-3-4
								床組など			
						フランジの直角度 δ (mm)	w/200	主桁	各支点及び各支間中央付近を測定。		10-16-3-4
圧縮材の曲がり δ (mm)	ℓ/1000	-	主要部材全数を測定。 ℓ：部材長 (mm)		10-16-3-4						



出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道路 編	16 道路 修繕	22 橋梁 付属 物工			橋梁耐震補強工（落 橋防止装置工）	削孔長		設計値以上	全数 （曲がらない定規による測定）		
						定着長		設計値-20又は 1D（アンカー 径）のいずれ か小さい値			
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種			小段排水工	厚さ	t	-20	施工延長40mにつき1箇所、施工 延長40m以下のものは1施工箇所 につき2箇所。		3-2-3-29-2 側溝工（場 所打水路 工）に準拠
						幅	w 1 w 2	-30			
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種			縦排水工	厚さ	t	-20	施工延長40mにつき1箇所、施工 延長40m以下のものは1施工箇所 につき2箇所。		3-2-3-29-2 側溝工（場 所打水路 工）に準拠
						幅	w 1 w 2	-30			
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種			張コンクリート工	厚さ	t	-20	施工延長40mにつき1箇所、施工 延長40m以下のものは1施工箇所 につき2箇所。		3-2-3-29-2 側溝工（場 所打水路 工）に準拠